

図書館ニュース

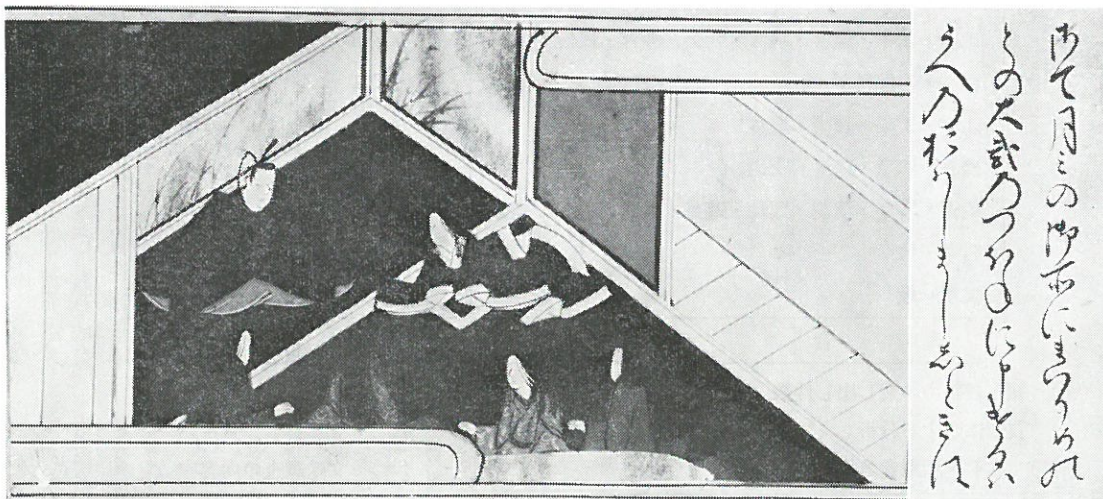
No. 11

1969

44. 5. 20・発行

発行人 中条 博

発行所 東京都文京区白山5丁目28番の20号 東洋大学附属図書館



奈良絵本『秋月』巻一の一部（解説は五頁）

就任の弁

図書館長 中条 博

私が本学図書館長に就任致しましたのは昨年七月末。微力ながら最善を尽くす決意しておりますので、教職員各位の今後とも一層の御教示とご鞭撻をお願い致します。現下、学内外とも多事多端であり、常に不断の努力と精進が必要なことは、当然のことながら、とくに新図書館建設という事業に直面している本学としては、その実現の為全学一体となって、学界の要望に答えるべきであると堅く信じています。

ところで、近頃、責任という言葉が問題になっているが、誤解もあるので、ひとこと、所信を披瀝したいと思う。ドイツの哲学者ヤスペルスは『哲学入門』で興味のあることを書いている。ある裁判所で、裁判長が被告に有罪の判決を下した。すると、被告曰く『なぜ自分を有罪にするのか。境遇が悪いのだ』そこで裁判長は『あなたの理論が正しいなら悪いのは私ではなく、裁判長という境遇ということになる。私を責めることは出来ないではないか』と。もし被告のような理論だと、良いとか、悪いとかいうこと、あるいは責任などと云うことは、人間社会に全然存在しないという理論にならざるをえない。環境とか運命というものによって人間が決められるというなら、人間のしていることは自然現象と同じで道德的な意味で良いとか、悪いとかいうことではない。要するに、われ／＼が頭で考えること、現実の生活には、大きなギャップがある。善悪なものもないのだというのは、われ／＼の人間生活というものは、余りにもドライであり、成り立つて行かないのではないかと思う。

1968年度

参考室統計

1968. 4. 1~1969. 3. 31

- (1) 開館日数 229 日
 (2) 推定入室者数 (イ) 15,166人(延べ人員) (ロ) 66.2 人(1日平均)
 (3) 蔵書構成 (イ) 2,957(タイトル数) (ロ) 6,888(冊数) (ハ) 内容

分 野	タイトル数	冊 数
図書館・書誌学・目録・索引	642	2,183
歴史・伝記・地誌・紀行	81	186
哲学・心理学・倫理学・宗教	170	284
政治・法律・経済・統計・社会・教育・民俗・軍事	308	682
数学・自然科学・医学	711	1,603
工学・工業・技術・家事	120	160
農林・水産・商業・交通	133	299
美術・音楽・演劇・運動・遊芸・娯楽	223	555
語学一般	420	738
文学一般	149	198
合 計	2,957	6,888

- (4) 複写のための貸し出し件数 739 件
 (5) 質問に関する分析

(イ) 内容・利用者分析

質問内容	件数	学 生	教職員	一 般
文 献 調 査	34	27	5	2
所蔵・所在調査	131	105	15	11
記載事項調査	96	90	6	0
そ の 他	29	26	3	0
合 計	290	248	29	13

(6) 相互サービスについて

(イ) 件数 71 件

(ロ) 内 容

	件数	本学から他大学機関へ依頼したもの	他大学機関から依頼を受けたもの
所蔵調査	22	13	9
文献調査	11	5	6
文献複写	29	12	17
そ の 他	9	4	5
合 計	71	34	37

(ロ) 文献調査の内容

図書館・書誌学関係	2
哲学・心理学・倫理学・宗教	4
歴史・伝記・地誌・紀行	6
社会科学一般	9
自然科学一般	1
農林・水産・商業・交通	1
語学一般	3
文学一般	8
合 計	34

- (注) ① 開館日数が昨年より少ないのは9月から10月にかけて学内が占拠されていたためです。
 ② 必要な参考図書の購入に関しては図書館までお寄せ下さい。
 ③ 文献複写サービスについては他大学の図書、資料についても取り扱いますので御利用下さい。(参考室まで申し出下さい。)
 ④ 参考図書の館外貸し出しは致しません。

なお、所蔵調査については電話によるものも含めました。

当面する図書館の諸問題

——書庫の現状と奉仕活動——

図書館において利用者へのサービスをスムーズに行う場合、係員が先ず感じるのは、現状に於ける書庫の不完全さと云うことである。現図書館は、昭和四年七月に建設されてより四〇年に亘って教育研究に一定の役割を果たして来たのであるが戦後の急激な学部学科の増設、及び学生数の増大、それに伴う図書増加(昭和三十五年から四十四年三月末現在までに約十萬冊増加)には、到底追いつけず、もはや総合大学の教育機関としての機能を充分發揮させるには、余りにも立ち後れた状況にある。そのもつとも顯著なものひとつに、極度な書庫の狭隘が指摘されよう。

参考までに、書庫施設の不充分さが奉仕活動をいかに阻害しているかを理解していただくために、その分散している場所と、その書庫面積を具体的な数字をあげて示すと、おゝむね次のようになっている。

(1) 本館書庫

(一一七・五〇坪(四二・一五㎡))

(2) 三号館第二閲覧室開架書庫

(二八・七四坪(九五㎡))

(3) 参考室開架書庫

(九・六九坪(三二・〇三㎡))

(4) 五号館(五三三教室)分室書庫

(十五・五三坪(五一・三三㎡))

(5) 五号館四階(法学資料室)書庫

(十一・九〇坪(四四・五五㎡))

(6) 講堂下(哲学堂文庫)書庫

(二二・一〇坪(七〇・八〇㎡))

総延面積(二一六・四一坪(七四〇・七一㎡))

前記にかかげた場所に蔵書数約二十二万冊(昭和四十四年三月末現在)を分散し保管しているのが実状である。通常奉仕活動を展開していく上から本学程度の蔵書数を保管するには、書庫面積だけでも最低三〇〇坪(九九〇㎡)は必要とされている。しかしながら実状は必要面積の $\frac{1}{3}$ (約二〇〇坪(六六〇㎡))程度にすぎない。しかも、その場所が点在しているという悪条件を考えれば、利用者に対するサービスが実際には、如何に困難であるかが理解されよう。

書庫内にあっては、既に整理済みの圖書の一部分は、書架の天井、あるいは床面に横重みされているのが実状である。この様な状態のもとにあっては、仕事をしていく上で多くの問題が指摘されているし、事実障害となってくるものも少なくないのである。その中でも特筆しなければならぬものに、

1、利用者に対して迅速なサービスがむずかしいこと、

2、係員の仕事の上での煩雑さ、

3、完全な資料の保管ができない点(換気、防虫駆除、防腐等)がある。

(1) 書庫の狭隘と、それにともなう分散保管は利用者にとって可成り不便をきたしていると思われる。事実図書館では利用者の投書からもうかがえるように、多くの問題がそれらに向けられている。殊に五号館分室に保管されている圖書の利用の際などは、常時係員がいる訳ではないから問題があるといえよう。このように利用者から見て書庫(施設)に対する不満が多々存在している。

(2) 係員の立場からは煩雑さが特に目立つ。まず書庫については、前述したように、六ヶ所に分散しているが既に飽和状態にあり、新たな書庫を確保しない限り、新年度より購入される圖書の保管は極めて困難である。また分散することによって生ずる事務の煩雑と、書庫内の圖書の配架整理は困難を極め、外部からは容易

に理解できない問題である。このようなエネルギーの浪費は限られた人員による奉仕活動を一層むずかしいものにしていく。

(3) 本学の重要な資料としての学祖井上円了所蔵文庫並びに貴重な文献の保管については、できる限り保管措置を講じてはいるが、現状のような換気装置、防虫駆除、防腐施設が欠如している状態では、将来に亘って完全な保管がなし得るか否か疑問視されている。

以上のような事実から導きだされる結論として、学内の総意による新図書館の建設計画が早急に起案され実行に移されなければならない点があげられよう。

いづれにせよ、このような環境の中にあっても、利用者へのサービスだけは、滞りなく行なっていかなければならない点が図書館関係者にとって今後に残されている最大の課題と言わなければならない。

昭和四十四年四月二五日

閲覧係 池田 勉
島田昌幸

蔵書の中から

一九五六年、カール・シュレヒタは、独自の見解に基づいて『ニーチェ三巻著作集』(Werke in 3 Bden. Hrsg. v. Karl Schlechta)を編集出版し、その第三巻々末の付録で、ニーチェ晩年の著作や多くの書簡に、ニーチェの実妹フェルスターによる故意の削除や改竄のあることを指摘し、さらに一九五八年には、その付録の文章をも含む著書『ニーチェ事件』(Der Fall Nietzsche)をあらわして、改竄削除の実情を暴露し、糾弾した。それ以来、書簡偽造のことも、『権力への意志』の偽作問題も、広く一般に知られるにいたったが、実はこの問題は、或る程度まで、専門の学者たちの間ではつとに知られていたのである。

そのきっかけになったのは、おそらく、スイスの神学者ベルヌリー Carl Albrecht Bernoulliとフェルスター・ニーチェおよびペーター・ガストとの間の訴訟事件で、法廷におけるその闘争の跡は、ベルヌリーが恩師オーファベックとニーチェとの交遊について書いた“Franz Overbeck und Friedrich Nietzsche-Eine Freundschaft.”のうちに生々しく

残されている。一九〇八年に刊行された。二巻からなるこの大冊のニー

チェ文献の第二巻には、*「ニーチェの判読できないように墨で塗りつぶされた箇所があって、読む者に奇異*

の感をいだかせずにはおかないが、三〇八ページには、枠でかこんだ次のような挿入文が思いだされるのである。

Infolge des jener GerichtsUrteils vom 27. Mai 1908 ist hier die Darstellung um die Seiten 309—316 gekürzt worden.

「一九〇八年五月二十七日のイエーナ裁判所の判決に従って、三〇九—三二六ページのこの箇所の叙述は削除された。」このことがあってから、ナウマン版として知られる最初の『ニーチェ全集』(Grossoktav Ausgabe in 19 Bden. Leipzig: C. G. Neumann 1894 ff.)にすでに部分的な改竄や削除のあることが知られるにいたり、このナウマン版をそのまま継承したムザリオン版(Musurion-Ausgabe: Werke in 23 Bden. Hrsg. v. Richard Oehler, Max Oehler u. Fr. chr. Würzboch. München: Musurion-Verlag 1920/29.)クローナー版(Kröner Ausgabe: Werke 12 Bden.

ニーチェ全集

Nietzsche, Werke. Kritische Gesamtausgabe.
Herausgegeben von Giorgio Colli und Mazzino Montinari, etwa 30 Bände in 8 Abteilungen.
Walter de Gruyter & Co. Berlin

Hrsg. von Alfred Baemler. Leipzig: Kröner Verlag 1930 ff. 新版 Stuttgart: Kröner Verlag 1965. など。その後いずれの版も同様の欠陥をもつことが明らかであったので一九三三年に出はじめたベック版全集(Historisch-kritische Gesamtausgabe der Werke und Briefe. Von der Stiftung Nietzsche-Archiv veranstatlet. München: C. H. Beck 1933 ff.)に大きい期待がかけられていたが、この全集は、一九四二年までに著作集五巻(一、二巻は H. J. Mette 編、三巻以後にシュレヒタ Karl Schlechta が編者に加っている)と書簡四巻(第一巻のみ Wilhelm Hoppe と K. Schlechta の共編、残りはホッペ編)を刊行したのみで完成を見るにいたらず、久しくその中絶が惜しまれていたのであった。

ベック版全集の編集にたずさわったことが、とくにその書簡集第一巻の編集のために既刊の『ニーチェ書簡集』(Nietzsches gesammelte Briefe, 5 Bde. Berlin: Schuster & Laeflter 1900 ff.)に厳密な考証を加えたことが、シュレヒタに懷疑を深めさせ、残されているすべての資料を徹底的に研究、検討させるにいたったのであろう。彼はその成果を、およそ二十年の後、さきに述べた三巻著作集として刊行したのであった。シュレヒタの投じた問題は、一九五七、八年頃、ドイツでは賛否両論を呼び起こして論争の種になったが、いずれに組するにせよ、この問題を無視してニーチェの全集を編集することがもはや許されないのは確かである。

こんど Colli と Montinari (ともにイタリー人であろうと思われるが、どういうニーチェ学者なのか、遺憾ながら筆者は知らない)の二人の編集で刊行を開始された全八部約三十巻の『ニーチェ全集』は、保存されている原稿、ノートなどのあらゆる遺稿を、断片にいたるまで洩らさず、厳密な文献学的研究に基いて年代順に収録し、「批判的」であることを特に標榜しているのであるから、それら改竄や偽作の問題にもなんらかの解決を与えてくれることであろう。既刊の第四部三冊は、その一に「反時代的考察」のうち第四部一篇と一八七五—一八七六年春までの遺稿断片二八〇ページを、その二と三には「人間的なもの、あまりに人間的なもの」全篇と一八七六—一八七九年十一月までの断片約四〇〇ページを収録、遺憾のない編集ぶりを示している。完成のあかつきには、最も權威ある全集として、今後のニーチェ研究の基礎となるとともに、「いわゆる「ニーチェ伝説」にゆがめられた、特に青少年期および晩年のニーチェ像が改められることであろう。

文学部教授 梶田啓三郎

貴重書から

『秋月』は『秋月物語』『京極中納言姫君物語』などとも呼ばれている。継子物恋愛物語といふべき内容の御伽草子である。

『住吉物語』が住吉にいる尼に助けを求めた姫の物語、というところから題号がつけられているのと同様に、『秋月』または『秋月物語』は九州の秋月の尼に助けられた姫の物語、という意味で名づけられたものである。さて、この姫は、京極大納言の娘で、あいきやうの君という。姫が七歳の時、母が死亡したので三年を過ぎて後、父は後妻を迎えたが、同じ年頃の娘を一人連れて嫁いで来た。そこに、関白の子・二位中将が登場して、あいきやう姫に思いを寄せ、文を通わしたので、継母は自分の娘に二位中将を横取りしようと計略をめぐらす。中將は姫のところへ夜毎に通って来て、契りを結ぶ。それを継母は深く嫉んで、数々の邪魔をし、最後には二人の武士をかたrazて、姫をひるが小島へ連れ出し、海中へ捨てさせた。たまたま筑紫の秋月の尼が熊野詣での帰途ここを渡り、姫を助けて連れ帰り、尼の傍におく。一方、都の二位中将は、清水の観音に姫の行方を知ろうと祈ると、西国にありと教えられて、旅に立つ。やつとのことではと再会でき、欲待されて九州にしばらく滞在。やがて、姫と尼を伴って京に上る。その後、中將は関白になり、めでたく栄えた、というのが筋書である。大体において短編が多い御伽草子類の中で、『秋月』は例外的に長い物語である。特に、構想上趣向上類似している『伏屋物語』『美人くらべ』『岩屋草紙』などの御伽草子・継子物の作品と比べても群を抜いて長文になっている。それは、二位中将の九州下向と京への上り旅の記事や九州滞在中の記事が、物語全体の三分の二を占め、長長と叙述されていることによる。この部分に『秋月』の特色があるといえるであろう。また、故事や古物語の引用の多いことも注目されるし、歌の数も九十五首という多数である。作者は不明であるが、上り下りの旅や九州滞在中の長長しい叙述の中に、公家の権力や権威をくどくどと書いていることから、没落した公家が作者であろうと想像してよさそうである。故事や古物語の引用が多いことも作者が公家であるにふさわしい博識ぶりといえよう。

ところで、本学図書館所蔵の『秋月』は、奈良絵本十冊で、島津久基先生旧蔵本の一。寛文頃写。袋綴で縦一六・五×横二二・五cmの横本。表紙は紺地に金泥で木や草花を描き、雲型に金箔を散らした紙表紙。題簽は金泥で草を描いた短冊形の朱色の紙

奈良絵本『秋月』解説 (表紙図版参照)

で、「秋月 一(一・三……)」と墨書、表紙の中央上に貼つてある。見返しは銀紙。問題はない。料紙は間似合紙。一面十三行、一行の字数十二〜十四字ぐらい。丁数は巻一が二十七丁、巻二が二十五丁、巻三が二十五丁、巻四が三十一丁、巻五が二十九丁、巻六が二十四丁、巻七が二十八丁半、巻八が二十七丁半、巻九が三十三丁半、巻十が三十四丁。奈良絵の挿絵は全巻四十六頁分ある。奥書はない。なお、巻一には綴じ違いがあり、本来二三・四・五丁に綴じられるべきものが、終りの二五・六・七丁に綴じられている。

伝本はかなりあるが、活字にされているのは、三種類で、『室町時代物語集三』(横山重・太田武夫氏)に二種、『室町時代小説集』(平出鏗二郎氏)に一種類が収められている。いずれも筋書はほぼ同じであるが、本文にはかなりの相違がある。その中で『室町時代小説集』所収本文(内閣文庫蔵写本の翻刻・明治四十一年発行)は、本書とは仮名遣いや漢字と仮名の相違や多少の異同はあるが、ほとんど同じ本文である。しかし、内閣文庫蔵本には長文の脱落がある。すなわち、本書の巻四の半ばから巻七の

終りごろまでが抜けているのである。

それは、この物語では重要な、姫と二位中将が再会する少し前の部分から九州滞在中の記事が大きく抜けているのである。また、編者平出氏も内閣文庫蔵本は「誤脱甚だ多くして殆ど読むに

堪えず。されども他に類本なきを以て姑くそのままに従へり。」といわれるように誤脱も多いし、字に癖があつてかなり読みにくいので『室町時代小説集』には読み誤っている所が少なくないようである。したがって、そうした長文の誤脱や読み誤まりは、本書によって補ったり訂したりすることができる。その意味でも本書は貴重であるといえる。

表紙写真、巻一の二番めの挿絵と、それに続く本文で、二位中将があいきやう姫への恋文の使いを白川という女房に頼んでいる場面である。その恋文には、きょしにはこころのそらにあくがれてみてはつゆけきそでのうへかなという歌が書かれている。

なお、本書が美しい奈良絵入りの本であるのに対して、内閣文庫蔵本は絵のない写本であることを付け加えておく。

寄 贈 図 書

43.5~43.7

書 (5 月 分) 名

町田家文書目録 1
 " 2
 " 3
 " 4

石川正西聞見集
 埼玉の中世文書
 老年学文献集 1966 年度浴風会医局編
 私版短詩型文学全書⑫八木三日女集
 宇津保物語 (俊蔭)
 東京市史稿産業篇第 12
 享保江戸図 (20 年)
 総持寺誌
 常済大師全集 (全)
 明治九年東京府管内統計表
 所蔵社史目録

所蔵経営図書目録外国書の部 I

" II

米国会社年次報告書目録 1951~1963
 営業報告書目録 [1. 戦前の部]
 渋沢栄一伝記資料別巻第 5 講演 談話 1.
 衛生通信年報 (41 年度)
 東洋学文献類目
 東京都日比野図書館蔵書目録

(6 月 分)

鈴木栄太郎著作集
 自由民主党年報
 大阪市立大学附属図書館所蔵レオローゼンベルク文庫目録
 American Educator Encyclopedia 1 巻~14 巻 全 14 冊
 和書増加目録 (41~42)
 証券年鑑 1968
 岡山大学蔵書目録第 4 巻 (昭 42)
 やきもの歳時記
 第 22 回国民体育大会報告書
 小糸製作所五十年史
 42 年科学技術研究調査報告 (昭 42)
 都市生活者の生活圏行動
 縛りつけられた風車
 Two conferences on chinese linguistics
 華嚴論節要 (全三巻)
 東大寺蔵 国宝重文 善本聚英
 創立八十五周年記念論文集
 THICH MAN, GIAC 1967
 日本海事史料目録第 1 集
 人間の悲劇
 河上肇の人間像

(7 月 分)

哲学と宗教
 和漢図書分類目録

" (上)
 " (下)
 " 索引
 " 増加 1.

商工政策史

" (20巻)化学工業(上)
 " (15巻)繊維工業(上)

鉄道車両工業 20 年の歩み

内閣文庫所蔵・岩倉具視関係文書目録

本草色葉抄

東京大学東洋文化研究所所蔵1968逐次刊行物目録(日本文・中国文・朝鮮文)

日本の安内保障 1968 年版

大阪府立図書館天王寺分館蔵大原文庫洋書分類目録(第 1 冊) S. 42.

" (第 4 冊) S. 43.

寄 贈 先

埼玉県立図書館

"
 "
 "
 "
 "

八幡船社
 神作光一
 東京都都政史料館

"

曹洞宗大本山総持寺

"

東京都都政史料館

神戸大学経済経営研究所 経営分析
文献センター

"
 "
 "
 "

渋沢栄一記念財団竜門社
 国際電信電話株式会社
 京都大学人文科学研究所
 日比谷図書館

鈴木 勁 介

自由民主党広報委員会

ローゼンベルク文庫目録刊行会

松村重俊寄贈

図書館短期大学

東京証券取引所

岡山大学附属図書館

佐藤千寿

埼玉県実行委員会

小糸製作所

総理府統計局

地域社会研究所

渡辺正知

プリンストン大学

平岡 宏 峯

東大寺図書館

明治大学図書館

釈 満 覚

日本海事史学会

井上 敬一

天野 敬太郎

加藤 隆 生

宮内庁書陵部

"
 "
 "
 "
 "

商工政策史刊行会

"

日本鉄道車輛工業協会

内閣文庫

"

東京大学

安全保障調査会

大阪府立図

"

(敬称略)

類 縁 機 関 案 内 (4) 参 考 係

資料調査に当って利用しうる各種の図書館及び類縁機関のうち主要なものから紹介して行きたいと思います。

名 称	所 在 地	電 話	交通機関	利用資格 (入館料)	開 館 時 間	休 館	資 料	備 考
日・ソ図書館	渋、千駄ヶ谷三一一	(四二) 六六八九	(国)代々木	一般一〇	一〇～一八	祭日	ソビエト関係図書雑誌 三五、〇〇〇冊	貸出は会員登録制 学生一〇
日本科学技術情報センター	千、一番町一五五	(六二) 五五三	(都)麹町四丁	一般	九、三〇～一六、三〇 (土二、三〇)	祭日	五八年以降の自然科学系雑誌 六、〇〇〇冊	
日本規格協会ライブラリー	港、赤坂一ツ木町八	(四六) 八〇〇一	(都)豊川稲荷	一般	九、一七	祭日	JIS各国規格	
日本近代文学館	目、駒場八六一	(四六) 四一八一	(井之頭)駒場 東大前	一八歳以上一〇	九、三〇～一六、三〇	祭日月末	近代文学資料 約一二万冊	複写可 研究室は一八三〇迄
日本航空図書館	港、芝新橋一八	(五九) 三三六	(国)新橋	一般	一〇～一七(土一五)	祭日	航空関係資料約三、〇〇〇冊	九月二〇日、一〇月一日は休館
日本交通協会図書館	千、丸の内三三四新	(三六) 四〇八三	(国)東京	要紹介	九、一七	祭日	交通関係資料約三万冊	鉄学連会員は紹介状不要
日本生産性本部経済開発部図書室	港、有楽町一三	(四九) 七八〇一	(国)渋谷	要紹介	九、三〇～一七、三〇 (金一八土二二)	祭日一六日	生産性資料、雑誌	身分証明書 貸出あり
日本繊維意匠センター	中、本町三一九	(四二) 七八〇一	(国)三越前	一般	九、三〇～一七、三〇 (土二二)	祭日	繊維関係 電気学五、〇〇〇冊(内洋書五〇〇冊)	「繊維デザイン資料」(月刊)
日本電気協会振興部調査課	千、有楽町一三	(四二) 〇〇八三	(国)有楽町	一般	九、五〇～一七、三〇 (土二二)	祭日	放送関係資料約八、〇〇〇冊	閉鎖中、四三秋愛宕山に開室
NHK放送博物館	港、赤坂青山南町六	(四九) 〇三六	(地)神宮前	一般	九、三〇～一六、三〇	祭月	会社、貿易関係資料	略称「ジエトロ」
資料センター	千、丸の内国際観光会館内	(五二) 五五一一	(地)新橋	一般	一〇～一七	祭日土	冶金、ニッケル関係	
日本貿易振興会	中、京橋一―二セン	(三六) 六三七〇	(都)京橋	一般	九、一七	祭日	食糧品、同省関係統計資料	
インフォセンター	トラルビル内	(三六) 六三七〇	(都)京橋	一般	九、一七	祭日	法律関係	
農林省弘済会資料相談室	千、霞ヶ関二―	(四二) 八一一	(地)霞ヶ関	同会職員の紹介	一〇～一六、三〇 (土二二)	祭日	災害関係 一一、〇〇〇冊	法務省の課長以上の紹介は別
法務省図書館	千、霞ヶ関一―法	(五二) 五五五一	(地)霞ヶ関	非公開	九、一七	祭日	法律関係	
防災専門図書館	千、平河町二―六	(二五) 八二二	(都)都庁前	一般	九、一七(土一四)	祭日	本に関する資料(特に洋書)一万冊	二月一日、八月一日は休館
丸善、本の図書	中、日本橋通二―六	(二五) 七二二	(国)東京	一般	一〇、三〇～一七、三〇 (土二二)	祭日	近世以降の刑事資料	
明大、刑事博物館	千、神田駿河台一	(五三) 五八一一	(国)お茶の水	一般	一〇、一六 (土二二)	祭日	法制史	
明裕国際図書館	中、銀座四―五	(五二) 一八一	(地)銀座	申込許可制	一〇、一六、三〇 (水土のみ)	祭日	テレビ建築写真関係資料	
三井文庫	中、上高田五―一六	(三六) 九四三二	(西部新宿)新井薬師前	要紹介	一〇、一六、三〇 (土二二)	祭日	近世文書資料(江戸経済)	貸出はせず
文部省史料館	品、豊川町一―	(七六) 二四四九	(田園都市)戸越銀座	非公開	一〇、一六、三〇 (土二二)	祭日	近世史料	指導教官の紹介(近世文書が読めること)
労働科学資料館	世、祖師ヶ谷二―	(四八) 三三四一	(小田急)成城学園前	一般	九、三〇～一六	祭日	労働に関する資料と統計	

昨年九月五―七日にかけて、昭和四十三年全国図書館大会が札幌市で開かれた。北海道は開道百年の記念祭が行われ、また、冬期オリンピックの開催地として決定されたことも重って、その熱い雰囲気がこの大会を包んでいた。更に道立図書館の新築工事完成を見たことが、北海道図書館史を飾る画期的な行事として注目されていた。

第一日目の開会式は、大会会長、名誉会長をはじめとし、札幌市長、文部大臣等の挨拶がなされ、図書館の必要性和その役割の重大さをうたったえられたが、要するに形式的な式典がどこおりなく行われたわけである。その中で、図書館界では知らぬ人のないほど有名な加藤宗厚氏が今年のNDC賞を授けられた。氏の図書館に対する貢献と情熱は誰しもが認めるところであり、今まで受賞が延ばされたことは全く意外であった。と発表された。

午後は小林秀雄氏の講演がなされ、また、カラー映画による北海道の自然やアイヌ生活の姿の紹介、そしてまた、小樽水産高校生による「ソーラン節」等のリクリエーションであった。

小林氏は本居宣長について語りながら、

「しきしまの やまと心を人問わば」

朝日ににおう 山桜花」

と云う彼の和歌を細かに解説し、最後に、やまと心とは単なる学問やイデオロギーを越えた日本人の心であり、この心なくして、学問とか合理主義だけでは決して世は良くならない、そしてこの心を重んじるのが日本人であると結んだ。

二日目は十四の部会に分かれて、講演や討論がなされた。私は大学図書館の部会に出席した。その会議の様子をくわしくは語れないが、ただ一つだけ考えさせられる点を述べよう。東京大学の田辺氏が東大に於ける図書整理の実状について語ったことである。東大には五二カ所の分館があり、そのすべての所で別々に図書整理がなされ、中央の図書館にカードが集中して来るが、それらのカードたるや分類や記述がまちまちであり、優劣があり、その差があまりにも大きいので、ユニオンカタログでは苦労させられるそうである。東大ではそれらの矛盾を解決するために、和書では国会図書館のカード、洋書ではアメリカのLCカードの購入について、目下研究中とのことである。氏はカードの統一化の必要性を強くうたったように主張した。「完全なカードが一つ造られれば、あとは同じ苦労するのは無駄である。そして最初のカードが注意深く造られれば、あとはそのカードを分けてもらえば良いのである。どこの大

全国図書館大会に出席して

中 村 準 一

学でもかなり優秀な司書が分類目録の作業に追われていて、その他の図書館活動に力をさく余ゆりがあるまいのは、決して良い図書館のあり方ではない。カードの統一化と云う大問題は今後の図書館が欲すると否にかかわらず、さけることができない問題ではないだろうか。

三日目は江別市西野幌の道立図書館で全体集会と閉会式が行われた。その会合の内容容よりも、むしろ道立図書館の見学について語ろう。北海道は道立図書館の建設のために、五億の費用をかけて、西野幌の原野に、地上三階地下一階の鉄骨コンクリートの建築をした。道立図書館と云うと北海道の中心地札幌市内にと云うのが常識的な考えであるが、札幌をさけて、郊外に出ること車で三十分、原始林を背景にした広々とした所を選んだのは、そこを将来の文教地区の中心地にしようとする未来に賭けた英断と云うことができる。この図書館に入ると、到る所静かな落着きをたゞよわす工夫がこらされている。アイヌ文化や、北海道の歴史を伝える貴重な資料の展示が、閲覧者の注意を引くように配置されていて、単なる図書館と云う以上に、北海道文化の保護と伝達の目的をそなえた、一大記念館の性格さえもついていることが誰の目にも明らかである。北海道を研究しようとする者はいつかこの図書館をさけることができなくなる日も遠からずして来るであろう。道立図書館は日本でも指折りの図書館として、その活躍が期待されている。

(分館員)

第一回日米大学図書館会議

日米両国間における図書館界の交流は、近年、目ざましいものがあるが、今般、大学図書館相互の交流、および協力に関する会議が東京で開催された。

正式名称は日米大学図書館会議 (JAPAN-U.S. CONFERENCE

ON LIBRARIES AND INFORMATION SCIENCE IN HIGHER EDUCATION) と呼ばれ、期間は、四十四年五月十五日から五月十九日まで、場所は、東京プリンスホテルであった。

今回は、その第一回で、今後共その趣旨にそって、継続、発展されるものとおもわれる。本学図書館からも、館長を初め数名が出席した。

第2閲覧室の入退室手続き変更について

今までの第2閲覧室の入退室手続きは利用者にとって、また係員にとっても大変複雑で、そのために利用者にわずらわしさを感じさせていました。その上図書館サービス本来の利用者への図書案内、サービスの伴う諸業務が滞っていることを痛感し、図書館をより自由に利用できるように、さらに、サービスを充実させていくために館員で検討して内容・手続き、配置等を次のように改善することにしました。

〔内容〕

1、学生証を係員に提示する（見せる）

2、ロッカー使用、不使用を問わず鍵を取る

3、自由席

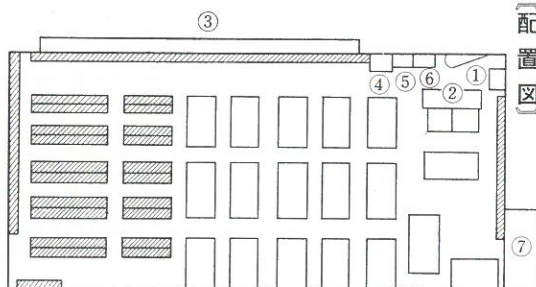
〔手続き〕

（入室）入室したら①ロッカー使用、不使用にかかわらず必ず鍵箱から鍵を取る。

（カバン、袋、ハンドバッグ等持っている人は大小を問わずロッカーを使用する）②係員に学生証を見せる。③カウンターから入室票を取り、鍵番号と自分の図書を持ち込む人はその冊数を記入して席につく。

（氏名・所属・は席についてから記入する。）

配置図



- ① 鍵箱
- ② カウンター
- ③ ロッカー
- ④ 第2図書のカード目録(分類順)
- ⑤ 新着図書
- ⑥ 荷物棚
- ⑦ ゼロロッカーの部屋
- 書架

（退室）ロッカー使用者は持ち込んだ図書を荷物棚に置きカバン等を出して来る。①鍵と記入した入室票と一緒に係員に渡して退室する。

* 鍵の紛失が多くなる恐れがあるので、必ず鍵を返すように注意してきます。

ロッカーの鍵を、ロッカー不使用者も持つてもらう理由は、それによって席の利用状況を知るためです。（鍵の数と席数を同じくしてありますから、残っている鍵の数によって席がいくら空いているかわかります。）

— 館員のコラム —

今 考 え る 事

これまで、十六年もの間馴れ親しんできた学生生活に別れを告げ、全く「未知の世界」に足を踏み入れて約一カ月になろうとしている。その学生生活のうち、特に最後の四年間の大学生活はノートとインクそれに教授の声の中で過ぎ、私にとってはけっこう楽しくまた居心地が良いものだった。しかし四年経って卒業を迎えるとなると母校をどうにも立ち去り難く（？）学生から職員へという質的变化をとげることを条件に残ることになった。

この間まで利用者として接してきたこの図書館において、今度は利用される側、すなわちより多く利用されるように奉仕の精神で学生、教職員に接し、更にはその奉仕の精神を学外の利用者にも発展させていく立場となったわけである。とはいえ、永い間にしみこんだ「学生気分」はそう簡単にふるい落せるものではない。正直に言えば、朝早く起きる事はつらく、好きな時に喫茶店へ行けない事は無念である。

働くものとしての意義や実感がいまだ希薄なのである。ただ、今まで利

用してきて感じた点もふくめて、図書館を有効な教養、研究のセンターとして機能させるようにしていきたいことは常に頭の中に潜んでいる。図書館をより良くするというのは当然であり、その要素は種々あるが、私は館員として、各部門のスタッフと連絡、調整を図りながら、図書館に来るすべての利用者の要求を満たすよう奉仕することでの役割の一端を担おうと思う。

この図書館は学生数等からみて、いささか不十分であり、必要な図書資料さえも書庫、書棚に収容しきれない状態である。早急に新しい図書館の建設が実現されることを渴望しつつ、また人的な機構・組織も大きくなるであろう点を考慮して、ともすればバラバラになりがちな各部門を、一貫した体系のもとに、よく連絡、調整された部門として有機的に連関しあうようにしていかなくてはならないと思う。

図書館が運営され、向上していこうとする時に私一人の力がどれだけ反映されていくのかわからないけれど、少くとも現在、より価値あると考えられることをしていこうと思う。

整理課 稲垣 加恵

図書費予算の執行に伴なう 書類整備等のため、ご協 方依頼について

図書費予算の執行については、従来学部又は学科により、直接購入しておられたところもありますが、(1)購入に伴なう書類の整備の必要(2)図書費予算の効率的な使用、の点から図書資料の購入は図書館で行ないたいと思いますので、お手数乍ら、購入については、購入要求書(図書館にあります)をご提出願いたいと思います。なお、書店に於て選定された図書は、購入してではなく、見計らいとして、図書館に納入されることは差支えありません。

なお、購入に必要な書類は、(1)購入要求書、(2)注文請書、(3)納品書、(4)請求書、(5)見積書です。(2)～(5)までは各三通、一種五万円以上のものについては二店以上の見積書を要します。念のため記します。なお、購入要求書御記入の際には、出版社、出版年、全集等叢書名のあるもの必ず御記入下さい。

図書館関係諸会議 (学内)

図書館運営委員会 (昭和43年度第2回)

43.12.26 (火) 会議室

議題: 1) 昭和44年度図書購入予算要求について

2) その他

図書館運営委員会 (昭和43年度第3回)

44.3.8 (土) 図書館(本館)雑誌室

議題: 1) 図書館諸規則の改正について

2) 図書館業務に関する人事の件

3) その他

図書館運営委員会 (昭和44年度第1回)

44.4.21 (月) 来賓室

議題: 1) 昭和44年度予算について

2) その他

図書館運営委員会 (昭和44年度第2回)

44.5.2 (金) 研修室

議題: 1) 昭和44年度予算について

2) その他

図書館運営委員会 (昭和44年度第3回)

44.5.22 (木) 来賓室

議題: 1) 昭和44年度予算配分について

2) その他

図書選択委員会 (昭和43年度第2回)

43.11.21 (木) 来賓室

議題: 1) 図書選択について

2) その他

図書館建設準備委員会 (第18回)

43.12.24 (火) 来賓室

議題: 1) 図書館建設準備委員会、今後の課題に

ついて

2) その他

図書館建設準備委員会 (第19回)

44.1.23 (木) 来賓室

議題: 1) 前回の意見に基づき理事長代行を囲んで意見交換及び説明聴取

2) その他

図書館建設準備委員会 (第20回)

44.4.14 (月) 来賓室

議題: 1) 新図書館建設について

2) その他

図書館合同委員会

43.8.28 (水) 私学会館

議題: 1) 文部省私立大学教育研究補助金について

図書館合同委員会

44.2.26 (水) 来賓室

議題: 1) 文部省私立大学教育研究補助金に關しての図書館予算の補正に関する件

図書館合同委員会

44.2.12 (水) 来賓室

議題: 1) 43年度図書購入予算の補正について

2) 学生用図書購入及び図書選択委員会のあり方について

3) その他

編集後記

「春は花夏ほととぎす秋は月冬雪さえて冷(すゞ)しかりけり」(道元)

この風流な四季の移り変わりも、最近そのローテーションに狂いが生じてきた様。今年に入ってから卯月の大雪、不快指数七五・気温三十度正に真夏並の阜月、一カ月足らずで、真冬から真夏へ、天上はいささか荒れ模様。

さて、図書館ニュースも昨年より諸般の事情により、そのローテーションにいさゝか狂いを生じ、一時休刊致しておりましたが、本年五月二十日付本十一号より再刊致すこととなりました。

なお、その間を利用して、図書館員協会の結果、本号からは従来一人だった編集責任者に、これを補佐する編集委員二名を加え、図書館員の意向を広く反映させ、皆様の為にも三人寄れば文珠の智恵で亦一段とより良きニュースの作成を目指しております。なお、休刊中のプランクの結果、本号の記事の内容に若干時間的にずれを感じさせる点があるかもしれませんが、この点は今後、号を追うに従って調整して行きたいと思っております。又本号からいささか部数を増しましたことをご報告して、最後に休刊のお詫びに添えて、今後とも何卒、御愛読下さる様、申し添えて戴きます。お忙しい中を、わざわざ原稿をお寄せ下さった教職員の方々、心からお礼申し上げます。有難うございました。